

公益財団法人 庭野平和財団御中

Transformation in East Asia
Toward the Common Future and Peace”

共同の未来と東アジアの平和
：分断を超えて平和へ！

東アジア次世代リーダー育成プログラム
平成 28（2016）年度 活動報告書

平成 29（2017）年 5月 22 日

ARI（Asia Regional Initiative）

1. 活動の目的

本プログラムは、東アジアの抱えるさまざまな共通の課題を共有し、問題解決のため共に努力する新しいリーダーシップを育成することを目的として開始しました。特に、かつては多地域・多宗教間にわたって連帯と協力関係のあった宗教者ネットワークに焦点をおき、宗教間・国家間の障壁を越え東アジア共同の未来を構成することのできる人材を育成することを目的としています。地域（local）に根を張り、地球的な（global）ビジョンを共有して協力できる「東アジア人」として、宗教者としてまたは地域活動家として新しいリーダーシップを築き上げるために、3カ年をひとつの期間としてプロジェクトを実施してきます。

その3回目の区切りとなる今回は、具体的に以下をめざしました。

1. 今までの参加者が自発的に企画を立案しながら今後の SEAL プログラムを考えていくこと。
2. 宗教間協力を深めるため、韓国では仏教（円仏教を含め）、日本ではキリスト教の参加を促進すること。
3. 地域（local）の観点から平和と幸福を目指す宗教の役割を明確にすること。
4. 日韓の参加者が今後、他のアジアの参加者を包摂できるように日韓の協力プラットフォームを強化すること。
5. 周辺からのアジア、つまり国家中心のアジアではなく根本的な共同体の観点からアジアを省察し、今後の国家や地域のあり方を再考し始めること。

上記をめざす観点から、今回の会場を国家の周辺にあたる済州島にしました。また、今後は同じく国家からの周辺にある沖縄や

香港そして特別な位置を占めている台湾などとのつながりを模索していきます。

そして、

平和と地域の人々の幸せがどうつながっているのか、そしてそこから国民だけではない“アジア人”というアイデンティティを宗教者の観点から、どうかんがえていくのかなどを主なテーマとしました。今後も主な流れでは、“東アジアにおける平和を目指す共同の未来”を宗教者が国境を超えて一緒に工夫しながら協力することになります。

2. 活動内容

第3回 東アジア次世代リーダーシッププログラム SEAL (School for East Asia Leadership) 2016 の実施

【期間】

2017年2月16日(木)～2月21日(火)

【開催場所】

韓国（チェジュ道）

合宿場所：チェジュ道 ケンシントンリゾート 西帰浦店

訪問場所：チェジュ道内、チェジュ平和博物館、

カンジョン村（海軍基地の村）、カンジョン村キリスト教会

【テーマ】

「共同の未来と東アジアの平和：分断を超えて平和へ」

2012年から東北アジアは、領土問題や従軍慰安婦問題などで、韓国、中国、日本の間では、協力より葛藤が起こっており、すでに朝鮮半島においては、軍事的葛藤が深刻となっている。またアメリカでは、トランプ新大統領が誕生し、将来が予測し難くなり、東北アジアでいつ戦争が起きもおかしくない状況にある。この緊迫した状態にもかかわらず、宗教が果たすべき平和活動は非常に少ない。今回、長きにわたって差別を受け続け、戦争の被害を被ってきたチェジュの歴史を現場から学ぶことから始めた。チェジュは、朝鮮時代から現在まで、アジアの様々な傷が歴史に刻まれている土地の一つである。

1990年から平和の島を目指すチェジュからは様々な発信があったが、2007年からは、カンジョン村の海軍基地問題が起り、美しい環境が壊され、村の人々の間でも基地受入れをめぐり分断が生じてしまった。また珍しい岩や異国的な雰囲気で観光地として脚光を浴びているが、朝鮮時代は流刑地であり、日本占領期は軍事基地として使われた。そして、解放後もイデオロギーの葛藤で、4.3事件では島の全人口の10分の1が虐殺された悲劇の島もある。

今回の最も重要なテーマは、封建主義、帝国主義、軍国主義、軍事主義そして冷戦による分断がまだまだ人々の記憶は勿論、島内の隅々残っているチェジュを学ぶことであった。二番目のテーマは、チェジュを通して沖縄を学び、その共通点を考えることであった。つまり、中央中心の国家主義によって日常化している差別と被害から、物質主義に基づく成長と軍事主義に基づく国家安保のイデオロギーを共に省察することであった。三番目のテーマは、中央と周辺の分断、また周辺の内部にある分断を乗り越える宗教者の役割を考え、自らに何ができるかを探求することであった。

特に今年は、キリスト教にとっては、宗教改革から 500 年という意義深い年であり、昨年 100 周年を迎えた韓国の円仏教にとっては、新しい 100 年を考える特別な意味がある年になっている。韓国は、口ウソク集会で、大統領を弾劾して、歴史を変える政治変動を迎えており、北朝鮮とアメリカの対立も戦争の直前までいくほど緊張感が高まっている。この中で、チェジュから学んだ平和のビジョンを具体化し実践していくモメンタムを作ることが全体の流れであった。

【ワークショップ】

1. 講義

- 1) チェジュから学ぶ歴史と日韓の協力の課題
朴メンス（円仏教教務）
- 2) 沖縄と福島の今
片岡平和（早稲田奉仕園）

2. ワークショップ

- 1) 歴史的経過を踏まえた現状の課題の共有
李起豪（アリ代表、韓信大学教授）
- 2) 共通の未来：ビジョンの共有
李起豪（アリ代表、韓信大学教授）
- 3) 宗教者としての反省と決意
提起：【校成会】宇梶憲市郎（芳瀬女学院情報国際専門学）
パネリスト：金迅野（在日大韓基督教会）
尹錦姫（円仏教）、朴永樂（韓国 NCC）

- 4) 宗教者としての反省と決意
- 5) 平和アクション&我々の約束

進行：廣瀬稔也（NPO 法人東アジア環境情報発伝所）

WS①、WS②、WS③のまとめを確認し、WS②で描いた未来のために、どんなアクションが必要か（できるかはさておき）を A. 宗教界全体、B. 各宗教団体、C. 所属教会、D. 宗教家個人の4つのレベルごとに色分けした付箋に各自で書き出す。そして、個々人が考えを発表し、4つのレベルごとに平和アクションのアイディアまとめる。また、4つのレベルのアクション実施にあたり、自分は何ができるのかを、a. 帰国後すぐ、b. 100日以内、c. 1年以内にわけて：A4用紙に1つずつ記入。最後に、個々人が考えを発表し、類似のアクションをまとめ、共同アクションプランとする。

【スタディーツアー】

1) チェジュ平和博物館訪問

チェジュ平和博物館は、民間人であるイ・ヨングン（李英根）さんが自身の父親が、強制労働に狩り出された一人だったという記憶から、その父親についての記録を歴史に残す必要があると考えてつくられた。彼は、地下壕が作られた山を買って、毎日、独力で発掘して博物館にした。この地下壕とは、太平洋戦争の時、日本が本土決戦を睨んで、沖縄と同じく済州島でも捨石作戦のためのものである。特にチェジュには、特別な地形を持ってこのカマオルムの日本軍の洞窟基地は2キロメートルにも及ぶ当時としては最大規模の洞窟基地で、内部は4つの地区に分かれ、3階構造となる巨大なものであった。（公式ホームページ：

<http://www.peacemuseum.co.kr>

2) チェジュ・カンジョン生命平和教会

カンジョン生命平和教会は、キリスト教長老派の教会で、カンジョン村の海軍基地反対運動で住民と一緒に戦ってきた教会である。しかし、最近は、住民の中で基地受入れをめぐる分断の心の傷が街全体を分断する中、対立した住民が和解し昔の情が溢れる街に戻すための祈祷と活動を行なっている。（公式ホームページ：
<https://www.facebook.com/pages/강정생명평화교회/722591794506830>）

3) カンジョン村と海軍基地

カンジョン村（江汀村）は、済州島の南部に位置する人口 1800 人ほどの小さな村である。特にグルンビという大きい天然の岩があつて美しくて珍しい海岸を持っていた。しかし 2007 年に韓国政府が 海軍の大きな軍港を建設することを決めて、住民の反対の声が高まった。住民が分かれ長い間激しい葛藤が続けてきたが、結局 2016 年海軍基地（民軍複合港）が竣工された。（詳しいのは、次の Web ページを参照 <http://japan.hani.co.kr/arti/politics/23443.html>）

3. 活動の実施経過

(2016 年)

- | | |
|------|--|
| 3月 | 韓国側の実行委員会会議
スカイプでの韓日実行委員会の会議 |
| 8月下旬 | 韓国側の実行委員会会議 |
| 9月下旬 | 日本側の実行委員会会議 |
| 10月 | 参加者募集の活動始め。
(特に日本側では、キリスト教会との対話) |
| 11月 | 韓国側の勉強会
日本側の実行委員会 |
| 12月 | 日韓共同実行委員会と拡大会議（2泊3日、東京）
日本の参加者拡大のための勉強会開催 |

(2017 年)

- | | |
|----|-----------------------|
| 1月 | 日本と韓国の参加者の確定と事前勉強会や面談 |
|----|-----------------------|

2月16日

～21日 ワークショップ実施（詳細スケジュールは下記）

- | | |
|-------|---|
| 2月～5月 | 日韓実行委員会のスカイプ会議
フォローアップ会合（日、韓それぞれ）
韓国の参加者の勉強会スタート（3月から月1回）
日本の参加者を招待し、勉強会などを共同で組む。
次のことを企画する会議 |
|-------|---|

4. 日程

2月 16日 (木)		
時間	内容	備考
12:20	OZ1075 羽田発 (14:40 金浦着) ※夕食が遅くなるため金浦で軽食推奨	日本、韓国参加者
17:10	OZ8969 金浦発 (18:20 済州着)	
19:00-20:00	参加者待ち合わせ@済州空港 合流して会場へ移動	
20:00-20:30	会場チェックイン	黃寶賢
20:30-	夕食	鄭鎮宇

2月 17日 (金)		
時間	内容	備考
07:30-09:00	朝食	
09:00-10:00	<u>日本側参加者事前ワークショップ（1）</u> 1) 自己紹介 ①各所属宗教団体での活動 ②SEAL に期待すること	
10:00-11:00	2) SEAL のこれまで紹介 ①過去の WS での議論を PPT で紹介 ②参加者から SEAL への質問タイム	野口陽一 廣瀬稔也 宇梶憲市郎
11:00-12:00	3) WS 「過去 3 年間の日本の 5 大イシュー」 ① ① 各自 5 つの付箋に課題を書き込む (1 位～ 5 位までの順位も) ②各イシューを選んだ理由を発表 ③KJ 法で課題を整理・抽出して 5 大イシューを選ぶ	
12:00-13:00	昼食 & 休憩	
13:00-14:30	<u>日本側参加者事前ワークショップ（2）</u> 4) WS 「東アジアの未来」 …日本の 5 大イシューの議論を受けて、 望ましい東アジアの未来をブレスト ①各自「こうなってほしい未来」を 3 項目、 付箋に書き込む ②各項目について各自発表し、	廣瀬稔也 宇梶憲市郎

	③ 自由討議 = 結論を得る目的ではなく頭の体操	
14:30-15:00	休憩／韓国側参加者到着	
15:00-16:00	SEAL オリエンテーション	野口陽一 鄭鎮宇
16:00-18:30	Peace-building Workshop +自己紹介	チョイジョン工 (非暴力、平和の波)
18:30~	歓迎レセプション	皆んなで

2月 18日 (土)		
時間	内容	備考
08:00-09:00	朝食	
09:00-10:00	発表1 済州島から見た歴史 (30分×2言語=60分)	朴メンス (円仏教教務)
10:00-10:15	休憩	
10:15-11:15	発表2 : 沖縄と福島の今 (30分×2言語=60分)	片岡平和 (早稲田奉仕園)
11:15-12:10	質疑応答&意見交換	朴永樂
12:10-13:30	昼食	
13:30-15:30	Workshop①歴史的経過を踏まえた現状の課題 の共有	李起豪
15:30-15:45	休憩	
15:45-18:00	Workshop②「共通の未来」ビジョンの共有	李起豪
18:00-19:30	夕食	
19:30-21:00	Workshop③宗教者としての反省と決意 提起: 【校成会】宇梶憲市郎(芳瀬女学院情報国 際専門学校) (15分×2言語=30分) 各宗教から一人ずつ: 【韓NCC】 【円仏教】 【日キリスト】 (5分×2言語×3名=30分) 自由討論	宇梶憲市郎
21:00-	自由時間	

2月19日(日) : Field Trip and Exposure

時間	内容	備考
08:00-09:00	朝食	
09:00-9:50	瞑想	朴大聲
10:00-	移動	(貸切バス)
11:30-12:30	昼食、町の無人カフェ	黃寶賢
12:30-14:30	済州平和博物館、(隧道、カマオルム) 館長との対話	黃寶賢
14:30-	移動	
15:30-18:00	カンジョンまち巡礼 1) カンジョン生命・平和教会 2) カンジョン村と海軍基地	チョウ・ヨンベ牧師 住民対策委員会の元代表
18:00-20:30	夕食 と移動	
20:30-21:30	討論	

2月20日(月)

時間	内容	備考
07:30-09:00	朝食	
09:00-12:00	Workshop④平和アクション & 我々の約束 (共同アクションプラン含む)	廣瀬稔也
12:00-13:30	昼食 ※日本側3名 空港へ점심식사	
13:30-18:00	城山日出峰などへの観光	
18:00-	夕食 & 懇親会	

2月21日(火)

時間	内容	備考
07:30-09:00	朝食	
09:00-10:40	振り返り	野口陽一・李起豪
10:40-11:00	チェックアウト	
11:00-13:00	散歩及び昼食	
13:00-	空港へ移動	

5. 参加者（総20名）

▪ 日本側参加者（9名）

性	名前		所属
M	野口陽一 노구치 요이치	NOGUCHI, Yoichi	庭野平和財団 니와노 평화재단
M	廣瀬稔也 히로세 토시야	HIROSE, Toshiya	NPO 法人東アジア環境情報発伝所 NPO 법인 동아시아환경정보발전소
M	宇梶憲市郎 우카지 켄이치로	UKAJI, Ken'ichiro	芳樹女学院情報国際専門学校 호쥬여학원 정보국제전문학교
M	片岡平和 카타오카 헤이와	KATAOKA, Heiwa	早稻田奉仕園 와세다호시엔
M	金迅野 김신야	KIM, Shin Ya	在日大韓基督教会 재일대한기독교회
F	長尾有起 나가오 유키	Nagao Yuki	日本基督教団・韓国基督教長老会 일본기독교단. 한국기독교장로회
F	安勝熙 안승희	AN, Seunghee	WCRP 日本委員会 WCRP 일본위원회
M	吉田達也 요시다 타츠야	YOSHIDA Tatsuya	庭野平和財団 니와노 평화재단
F	工藤夏樹 쿠도 나츠키	Kudo, Natsuki	立正佼成会 学林 입정교성회 학림

▪ 韓国側参加者(11名)

姓	名前		所属
M	정진우 鄭鎮宇	Jeong Jin-Woo	한국기독교교회협의회 인권센터 소장 韓国基督教教会協議会 人権センター

M	이기호 李起豪	Yi, Ki-Ho	한신대학교 교수 / ARI 대표 韓信大学教授 / ARI 代表
M	박영락 朴永樂	Park, Young-Rak	한국기독교교회협의회 부장 韓国基督教教会協議会
F	황보현 黃寶賢	Hwang, Bo-Hyun	한국기독교교회협의회 간사 韓国基督教教会協議会
M	이영신 李永愼	Lee, Young-Sin	천주교 꼰벤뚜알 작은 형제회(청원장) カトリックコンベンツアル小さな兄弟会
M	박대성 朴大聲	Park, Dae - Sung	원불교 한율안신문 편집장 円仏教 ハンウルアン新聞編集長
F	윤금희 尹錦姬	Youn Gum-Hi	영산선학대학 사회복지학과 교수 靈山禪学大学校/社会福祉学教授
F	조미수 曹美樹	Cho, Mi-Su	문화평화단체 '풀울림' 공동대표/ 통,번역(한-일) 文化平和団体“フルリム”共同代表/通訳・翻訳（日韓）
F	김민지 金民智	Kim, Min-Ji	기장 생태공동체운동본부 간사 韓国基督教長老会
M	김현진 金 玄辰	KIM, Hyun-Jin	한국국립正校成会
M	김동언 金東彦	KIM, Dong-eon	国立正校成会

6. 活動の成果

- ✚ 今回は、何よりも参加者が主体的に参加し、日韓参加者が自らプログラムを企画したことが大きな成果である。今まででは、5、60代の先輩グループが企画してきたが、今回は、日韓で3、40代の主な参加者をそれぞれ3人ずつ選定して全ての準備や進行を担当した。これにより、全体の雰囲気も活性化し、参加者が能動的に参加したことでの、今後の持続可能性が高まったと考える。
- ✚ 宗教の調和が非対称的であったが、今後は、少しずつ多様な宗教の参加が可能になると期待できる。今まででは、韓国は、主な参加者がキリスト教のメンバーで、日本の場合は、立正佼成会の人々が多かった。しかし、今回からは、日本のキリスト教も積極的に参加することとなった。早稲田奉仕園からの参加と在日キリスト教の参加があったのは大きな成果である。また韓国では、円仏教が活発に参加することになった。韓国は、カトリックと曹溪宗などの大きい仏教のメンバーの参加が少なかったが、今後は、少しずつ増える見込みである。日本でも少しずつ多様な宗教者の参加が増える可能性が高くなったので、この多様性と積極的な関心の高まりが何よりの成果である。
- ✚ 今回の参加者では、世代の問題も多様化され、3、40代が主に参加に加えて、5、60代と20代の参加も少し増え、今後は世代間の対話も期待できる。
- ✚ 今まで、SEALのワークショップが年1回あり、ワークショップの前後の準備会議や反省会などが全てであったが、今回は、勉強会と事前のワークショップが開催され、日常的に意思疎通し協力できる集まりや勉強会がワークショップの前後にあった。また日韓の参加者間における友情と信頼関係が強まることは、今後の枠組として大いに期待できる。
- ✚ テーマについても、参加者の発言で、なぜアジアから見る観点が大事であるのかを感じたという評価が出され、今後は日韓だけではなく場所、関心、参加者などをアジア全体に広げるきっかけになると考える。

- ✚ また、ローカルとリージョンのレベルを繋ぐことが難しかったが、今回は、これらを結びつけることができたと参加者がそれぞれ語った。特に日韓の共通の課題が見えてローカルとローカルが協力し、平和をめざすリージョンを作る必要性を参加者が感じたことも大きな成果である。
- ✚ 今回がプレ企画も含めると4回目となることから、毎年、日韓相互に何が起きたかを学び合うことで、日韓双方の事情がはるかに理解しやすくなってきた。今後も毎年お互いにその年に出来事を学びあうことで、協力できる共通の基盤を強化・拡大することに役に立つと信じる。
- ✚ 今までのテーマでは、豊かさとは何か、幸福とは何かを実現する場として「まち（地域）」に焦点をあててきた。今回は、そのまち（地域）とアジアという歴史や国家の構造が、どのように小さな町に根本的な影響を及ぼすかを学ぶ機会を得た。したがってアジアに関する興味が深まったことも重要な成果である。
- ✚ 最後に、東北アジアの緊張感の高まりにもかかわらず、宗教の役割が見えないことに気づき、今後の平和構築のために宗教の役割が何かを共同のテーマとすることが、肌で感じられるようになっている。

7. 今後の課題

- ✚ 新しく作り出した実行委員会がもっと主体的にイニシアティブを持って活動することが求められる。
- ✚ 今回は、韓国と日本の宗教の多様性が可能になるきっかけを作ったが、今後多様な宗教から参加者が増え、宗教の間での対話と協力ができるように工夫していく必要がある。
- ✚ 参加者が、常に自由に話し合いながら協力するためには、言葉の問題について個々人が努力する必要があるし、これが可能になる機会を広げる必要がある。例

えば、交換留学生のように、それぞれの宗教団体が受け入れ、言語を学び、相手の現場を理解する機会を与える方策を探す必要がある。

- ✚ 日韓それぞれ、参加者が積極的意見交換しながらお互いに学ぶ勉強会を活性化していく必要がある。例えば、時事問題や、宗教問題、アジア共同体などを一緒に勉強したり、必要であれば外部から専門家を招待したり、現場を尋ねたりしながら勉強する。
- ✚ 今までの3年間は、次世代を育成するプログラムの柱を作ることに注力してきたが、今後は、これを少しずつ広げるため、外に対して我々のメッセージをシェアする方法を開発する必要がある。例えば、ウェブサイトかSNSとか、パブリックフォーラムとかを工夫していくべきであろう。
- ✚ 2017年チェジュ道でのワークショップは、今後のアジアの周辺部を結びつけるための試行でもあったので、今後、沖縄や香港、台湾などの周辺から見て差別と分断を乗り越える方法と、国境や地域を超える市民連帯を模索していくべきである。
- ✚ また、今まででは、日韓で協力してきたのがこのような両者レベルから中国、台湾などを含む三者、さらに東南アジアを含むマルチラテラル(multilateral)関係を構築する力量を準備し強化していく必要がある。